

## 10 胎児腹水にて呼吸障害をきたした一例

小林久美子・新田 幸壽・内藤 真一  
臼田 東平\*・大石 昌典\*・永山 善久\*  
坂野 忠司\*・山崎 明\*・小林 玲\*\*  
冠木 直之\*\*  
新潟市民病院小児外科  
新潟市民病院新生児医療センター\*  
三条総合病院小児科\*\*

出生後に多量の胎児腹水により呼吸障害をきたし、手術を施行した症例を経験したので報告する。症例は0生日の男児。40週4日、3484g、経膈分娩にて出生した。腹部膨満高度であり、超音波検査にて多量の腹水を認めた為、当院NICUに搬送された。入院後、呼吸状態の悪化を認め、直ちに挿管を行い、胎便性腹膜炎を疑い緊急手術を施行した。手術所見では腹水は350mlで性状は黄色透明であった。腸回転異常や穿孔は認めなかった。

直腸には胎便を認めたが、回盲部からS状結腸まで狭小化していたため、回腸瘻を造設した。病理に提出した虫垂と回腸瘻には正常神経節細胞を認めた。術後、腹水は徐々に減少した。肛門内圧検査、回腸瘻からの注腸造影で異常は認めず、生後29日に回腸瘻閉鎖術を施行した。胎児腹水は胎児水腫に伴うものと、伴わない場合がある。様々な原因が報告されているが、本症例に関して、腹水の原因は不明であった。

## Ⅱ. 特別講演

### 「栃木県の周産期医療の現状と課題」

国際医療福祉病院院長

佐藤 郁夫